

第五十八回 最近、歯と病気との関係がわかった事

頭蓋骨の外側のズレ・捻れを治し、口の中の上顎骨つまり上の歯全体を支えている歯の周囲の歯槽骨の異常なズレのところだけ押して修正する事で上顎骨のバランスをとる事により頭蓋骨全体の骨のバランスをとれるものです。但しそれ迄に骨盤、背骨、首の骨をゆるめておかなければ頭蓋骨の骨はビクとも動かないものです。

頭蓋骨全体の骨のバランスをとる事により、骨盤のズレ、背骨・首の骨の前後のズレ、捻れが一瞬に正常な位置に動くものです。

正常にする事により血流がよくなり手足だけでなく、内臓の異常反応も一瞬に消えるものですが、そこで歯全体の咬み合せのバランスが狂った状態で咬みますと一瞬に頭蓋骨、首の骨、背骨、骨盤、内臓、大脳にも異常反応をおこし、大脳の右寄りかそれとも左右後か又は前なのか、歯の咬み合せの高低の位置により、変化をおこすものです。

咬み合せが高いと歯のその位置に合った大脳の外側の骨が膨らみます。低いとくぼみます。

そこで、前回のコラムで述べた様に足の反応を調べるのです。

足の指、足の裏、足の甲等に歯の咬み合せの高低、どの位置の歯なのか、そして背骨の上から何番目の骨なのか調べます。

各背骨から各内臓へ神経が走っているものです。

背骨の1番上は心臓の冠状動脈、2番目は心臓の心筋、3番目は肺、気管支、4番目は胆のう、5番目は胃、6番目はすい臓(以下略します)というようになっています。

そして背骨の骨が前方にズレをおこしていると背骨と関係する内臓が機能低下です。後方にズレをおこしてしまいますと機能亢進です。機能低下は自覚症状がわかるようです。

機能亢進は意外とわからないものです。

心筋梗塞は背骨の上から1番2番が前方にズレをおこしているものです。

胃の機能低下は背骨の上から5番目が前方にズレをおこして、胃の調子が悪い、逆に胃の機能亢進は胃酸が強いという事です。

大汗かくのは背骨の上から9番目の背骨が後方にズレをおこしているものです。逆に前方にズレますと寒がりです。9番目は副腎との関係です。

背骨の前方・後方のズレだけでなく、背骨の捻れつまり回転変位では例を上げて、背骨の骨の右側が前方にズレをおこしていると反対側の左側は後方にズレをおこし、後方にズレをおこしている関係の左の歯の咬み合せが上か下かどちらかが右と比較して高いということです。左側の歯が高いと思って削って低くしますと左右共に低くなり、それに関係する背骨は前方にズレをおこす場

合もあるものです。

そして最終的に口の中のどの位置の歯なのか又、上か下の歯なのか決定しなければならないものですが、頭蓋骨のズレ、捻れだけでなく実際は頭蓋硬膜の緊張をおこしている混合型が多いものです。

頭蓋硬膜の緊張をおこしますと頭蓋骨がギュ〜としめつけられた状態で、首の骨、背骨はすべて前方にズレ、体中の関節がリュウマチの様にすべて異常を生じ、体全体の血流が悪くなり、常にダルク人によっては頭に血がこもり熱くなったり、息が苦しい、腰が重ダレイとか訴えるものです。病人はこのタイプが多いものです。

普通の人でもなるものです。

自分の体に合わない薬、又はドリンク剤、健康食品を服用したりすると逆に体が悪くなったりするものです。

又チタンという金属は体に非常に親和性があり非常にいいものですが、電池付腕時計とか携帯電話からだす電磁波により今度は全く逆の悪物になり一瞬にして頭蓋硬膜の緊張をおこし、首、背骨の骨は前方にズレ血流が悪くなるものです。

体にチタンの金属を身につけていますと 10m〜15m 先に携帯電話を持っている人がいるならば、頭蓋硬膜の緊張の被害を受ける事になります。家庭内にも電化製品から電磁波が出ているものです。

又、人によってはコンタクトレンズが合わない人も軽い圧の外的障害を受けて頭蓋硬膜の緊張をおこすものです。

血流のよい人はこの様なものを身から離すとスグに元の健康な状態になるものですが、血流の悪い人はそのまっになってしまうものです。

ところが歯の矯正治療を受けた人は歯だけが動いただけでなく、歯を支えている歯槽骨迄が弱い力で長時間かけて歯槽骨迄ズレをおこしますと、頭蓋骨全体がズレをおこし、頭蓋骨のズレをおこしますと必ず首の骨、背骨、骨盤から足先迄ズレをおこし、体全体の血流を悪くするものです。

歯の矯正治療を受けた人は年を増す程体の不調が多くなり、精神的異常をおきやすいものです。では歯のインプラントの材料はチタンという金属だけの問題ではなく、さらに歯根膜という歯と骨との隙間がなく一回でも咬む事により外的障害を受けて頭蓋硬膜の緊張をおこし、ダブルの悪影響を受けるものです。

歯の矯正治療した人はまだ救えるものです。

骨に埋まったチタンという金属をどうするかインプラントを入れた歯医者に相談をしてみてもいいかがでしょうか？

若い時はそれ程困らないものですが、年をとればとる程血流が悪くなり人によっては手先、足先から始まり体全体のシビレ又は痛みがおこりやすいものです。

付加として薬による体の機能亢進は左足が短くなるものです。

薬による体の機能低下は右足が短くなるものです。

薬による機能亢進、機能低下は共に首の骨は逆カーブつまり後方湾曲しているものです。そして共に血流も悪いものです。

薬による機能亢進は背骨のどこかで後方にズレ、機能低下は背骨のどこかが前方にズレをおこし、毒性の強い薬は首の骨、背骨すべてが前方にズレ、全身血流も悪くなり、さらに左右の足の長さが左右差が大きくなるものです。

歯の矯正治療した人、人工歯であるインプラントの歯を入れた人はすべての首の骨、背骨は前方変位をおこしているものです。